

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成31年2月13日

【四半期会計期間】 第57期第3四半期(自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日)

【会社名】 レオン自動機株式会社

【英訳名】 RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 田代康憲

【本店の所在の場所】 栃木県宇都宮市野沢町2番地3

【電話番号】 (028)665-1111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 財務統括部長兼経理部長 宮岡正

【最寄りの連絡場所】 栃木県宇都宮市野沢町2番地3

【電話番号】 (028)665-1111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 財務統括部長兼経理部長 宮岡正

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期 第3四半期 連結累計期間	第57期 第3四半期 連結累計期間	第56期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (千円)	21,322,603	22,681,575	27,912,629
経常利益 (千円)	3,144,971	3,184,033	3,710,428
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	2,207,134	2,182,483	2,689,807
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	2,665,664	2,164,703	2,693,172
純資産額 (千円)	22,250,800	23,655,831	22,279,112
総資産額 (千円)	30,013,227	31,493,507	30,991,529
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	82.43	81.50	100.45
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	82.30	81.34	100.29
自己資本比率 (%)	74.0	74.9	71.8

回次	第56期 第3四半期 連結会計期間	第57期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	30.63	34.92

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、第2四半期連結会計期間において、連結子会社である、亞太雷恩自動機股分有限公司を清算したため、連結の範囲から除外しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景とした個人消費の緩やかな回復、好調な企業収益を背景とした製造業の能力増強投資、人手不足対応の省力化投資の増加、東京五輪関連の建設投資など、全体としては緩やかな回復基調で推移しました。

海外経済におきましては、米国では雇用環境の改善持続、個人消費の好調持続などにより、景気の拡大が継続しました。欧州では、輸出と設備投資などが減少したことにより減速しました。アジアでは、中国で固定資産投資の回復のきざしはある一方、米中貿易摩擦などにより減速しました。

このような状況の中、当社グループは2018年度を初年度とする中期経営計画を策定し、『変革への挑戦』を合言葉に、4つの重点施策である「生産体制の強化」「販売体制の強化」「人材育成」「業務環境整備」に取り組んでおります。

当社グループが市場とする食品業界は、消費者ニーズの高度化、多様化に伴う商品のバラエティ化、人手不足を背景とした省人化・省力化などの課題をかかえております。また、食の安全性、健康志向の増大、環境問題など市場のニーズが多様化しております。変化する市場環境や経営環境に対応するため、市場動向を調査し、レオロジー（流動学）を基礎とする当社独自の開発技術の商品化およびソフト技術の充実により、食品機械のより一層の標準化推進と、安全性の向上を図るとともに、多様な消費者ニーズに対応できる商品群を国内および海外の食品業界へ提案してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

a. 財政状態

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて77百万円減少し、16,268百万円となりました。受取手形及び売掛金が845百万円減少した一方、売掛金の回収などにより現金及び預金が464百万円増加、商品及び製品が335百万円増加したことが主な要因です。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて579百万円増加し、15,224百万円となりました。投資有価証券が217百万円減少した一方、オレンジペーカリーの第3工場拡張などにより有形固定資産が644百万円増加、当社の基幹システム入れ替えにともなうソフトウェア仮勘定の増加などにより無形固定資産が187百万円増加したことが主な要因です。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて501百万円増加し、31,493百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて769百万円減少し、6,234百万円となりました。短期借入金が475百万円増加した一方、前連結会計年度末における原材料等の購入が多かったため、支払手形及び買掛金が295百万円減少、売掛金に充当したことにより前受金が897百万円減少したことが主な要因です。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて104百万円減少し、1,603百万円となりました。これは、長期借入金が141百万円減少、繰延税金負債が20百万円減少、資産除去債務が61百万円増加したことが主な要因です。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて874百万円減少し、7,837百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1,376百万円増加し、23,655百万円となりました。これは、利益剰余金が1,379百万円増加したことなどによります。

b. 経営成績

当第3四半期連結累計期間における売上高は22,681百万円（前年同四半期比6.4%増）、営業利益は3,037百万円（前年同四半期比0.5%減）、経常利益は3,184百万円（前年同四半期比1.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,182百万円（前年同四半期比1.1%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、セグメント別の売上高は、連結相殺消去後の数値を、セグメント利益は、連結相殺消去前での本社一般管理費を除いた数値を記載しております。

食品加工機械製造販売事業(日本)

日本国内では、食品成形機、修理その他の売上は減少しましたが、製パンライン等、仕入商品の売上は増加しました。

製パンライン等増加の主な要因は、省人化・省力化、品質アップ、バラエティー化、生産能力増強などに対応した大型ラインの販売が好調だったことがあげられます。

その結果、外部顧客に対する売上高は10,950百万円(前年同四半期比25.2%増)となりました。

セグメント利益は3,461百万円(前年同四半期比22.3%増)となりました。

食品加工機械製造販売事業(北米・南米)

アメリカ地域では、食品成形機、製パンライン等、修理その他の売上が減少したため、現地通貨ベースでは、前年同四半期比15.1%減少となりました。

円ベースでは、円換算に使用するUSドルの期中平均レートが111円70銭から111円14銭と0.5%の円高となったため、外部顧客に対する売上高は1,253百万円(前年同四半期比15.5%減)となりました。

セグメント利益は7百万円(前年同四半期比92.5%減)となりました。

食品加工機械製造販売事業(ヨーロッパ)

ヨーロッパ地域では、食品成形機、製パンライン等、修理その他の売上が増加したため、現地通貨ベースでは売上高が前年同四半期比27.5%増加となりました。

食品成形機増加の主な要因は、クノーデル、スコッチエッグ、クッキーなどの生産用として火星人の売上が増加したことがあげられます。製パンライン等増加の主な要因は、バゲット、ビスケット、クッキーなどの生産用として大型ライン、ブレード生産用として生地分割機の販売が好調で、売上が増加したことがあげられます。円ベースでは、円換算に使用するユーロの期中平均レートが128円53銭から129円49銭と0.7%の円安となったため、外部顧客に対する売上高は2,725百万円(前年同四半期比28.5%増)となりました。

販売費及び一般管理費が42.3%増加したことにより、セグメント利益は124百万円(前年同四半期比44.1%減)となりました。

食品加工機械製造販売事業(アジア)

アジア地域では、食品成形機の売上は増加しましたが、製パンライン等、修理その他、仕入商品の売上は減少したため、外部顧客に対する売上高は2,165百万円(前年同四半期比14.7%減)となりました。

食品成形機増加の主な要因は、中華まん、月餅、中華菓子、ミニパンなどを生産する火星人の販売が好調だったことがあげられます。

セグメント利益は売上原価率の低下により、858百万円(前年同四半期比4.2%増)となりました。

食品製造販売事業(北米・南米)

アメリカ地域では、オレンジペーカーの売上高が現地通貨ベースで、前年同四半期比13.3%減少となりました。

主な要因は、新規顧客へのフィリング入りパイ製品などの売上が増加しましたが、大手顧客へのクロワッサン等の売上が減少したことがあげられます。円ベースでは、円換算に使用するUSドルの期中平均レートが111円70銭から111円14銭と0.5%の円高となったため、外部顧客に対する売上高は5,216百万円(前年同四半期比13.8%減)となりました。

セグメント損失は95百万円(前年同四半期はセグメント利益321百万円)となりました。主な要因は、貸倒損失555百万円を計上したことにより、販売費及び一般管理費が増加したことがあげられます。

食品製造販売事業(日本)

日本国内では、(有)ホシノ天然酵母パン種の外部顧客に対する売上高は370百万円(前年同四半期比3.7%減)となりました。

主な要因は、大手顧客へのパン種の販売が減少したことがあげられます。

セグメント利益は51百万円(前年同四半期比37.2%減)となりました。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

①重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、決算日における資産、負債の報告数値、ならびに報告期間における収益、費用の報告数値は、過去の実績や状況に応じて合理的と考えられる要因などに基づき、見積りおよび判断を行っているものであります。経営者は、これらの見積りについて過去の実績や状況に応じて合理的に判断しておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

②当第3四半期連結累計期間の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容については、次のとおりです。

a. 財政状態の分析

財政状態の分析につきましては、「第2 [事業の状況] 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

b. 経営成績の分析

(売上高)

当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同四半期に比べ1,358百万円増加し、22,681百万円（前年同四半期比6.4%増）となりました。セグメント別の売上高については、「第2 [事業の状況] 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

(売上総利益)

当第3四半期連結累計期間における売上総利益は、前年同四半期に比べ858百万円増加し、10,600百万円（前年同四半期比8.8%増）となりました。売上総利益率は、前年同四半期比1.0%増加し、46.7%となりました。

(営業利益)

当第3四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は、貸倒損失555百万円を計上したことなどにより、前年同四半期に比べ872百万円増加し、7,563百万円（前年同四半期比13.0%増）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益は前年同四半期に比べ13百万円減少し、3,037百万円（前年同四半期比0.5%減）となりました。

(経常利益)

当第3四半期連結累計期間における営業外収益は、186百万円（前年同四半期比47.7%増）となりました。

営業外費用は、39百万円（前年同四半期比21.6%増）となりました。

以上の結果、経常利益は前年同四半期に比べ39百万円増加し、3,184百万円（前年同四半期比1.2%増）となりました。

(親会社株主に帰属する四半期純利益)

前第3四半期連結累計期間における特別利益・特別損失の計上はありませんが、当第3四半期連結累計期間は特別利益を55百万円、特別損失を70百万円計上しております。また、法人税等合計は、前年同四半期に比べ48百万円増加し、986百万円となりました。

以上の結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期に比べ24百万円減少し、2,182百万円（前年同四半期比1.1%減）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は556百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	42,800,000
計	42,800,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成31年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,392,000	28,392,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	28,392,000	28,392,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年12月31日	—	28,392	—	7,351,750	—	2,860,750

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成30年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 1,613,900	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 26,741,400	267,414	—
単元未満株式	普通株式 36,700	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	28,392,000	—	—
総株主の議決権	—	267,414	—

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式が82株含まれております。

② 【自己株式等】

平成30年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
(自己保有株式) レオン自動機株	栃木県宇都宮市 野沢町2番地3	1,613,900	—	1,613,900	5.68
計	—	1,613,900	—	1,613,900	5.68

(注) 当第3四半期会計期間末の自己株式数は、1,614,171株であります。

2 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
専務取締役兼上席執行役員 (国内営業、生産管掌)	常務取締役兼上席執行役員 (営業本部長)	片山 芳夫	平成30年7月1日
常務取締役兼上席執行役員 (購買担当兼海外営業部門管掌)	常務取締役兼上席執行役員 (機械販売子会社担当)	中尾 明功	平成30年7月1日
取締役兼執行役員 (管理本部長兼食品製造販売事業担当)	取締役兼執行役員 (食品製造販売事業担当)	小林 幹央	平成30年7月1日

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,386,472	6,850,504
受取手形及び売掛金	※ 3,985,448	※ 3,139,958
商品及び製品	3,404,740	3,740,336
仕掛品	1,715,824	1,156,020
原材料及び貯蔵品	792,470	779,329
その他	261,332	627,647
貸倒引当金	△199,848	△25,133
流動資産合計	16,346,439	16,268,663
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	12,909,633	13,734,181
減価償却累計額	△8,362,836	△8,654,935
建物及び構築物（純額）	4,546,796	5,079,246
機械装置及び運搬具	7,361,608	7,595,704
減価償却累計額	△5,524,557	△5,797,000
機械装置及び運搬具（純額）	1,837,050	1,798,703
工具、器具及び備品	1,889,399	2,046,980
減価償却累計額	△1,725,201	△1,767,125
工具、器具及び備品（純額）	164,198	279,855
土地	4,709,318	4,733,431
リース資産	100,103	45,021
減価償却累計額	△75,864	△28,117
リース資産（純額）	24,238	16,904
建設仮勘定	561,134	578,913
有形固定資産合計	11,842,736	12,487,054
無形固定資産	235,488	423,072
投資その他の資産		
投資有価証券	1,054,575	837,185
退職給付に係る資産	1,339,027	1,339,773
その他	179,093	145,025
貸倒引当金	△5,832	△7,268
投資その他の資産合計	2,566,864	2,314,716
固定資産合計	14,645,089	15,224,843
資産合計	30,991,529	31,493,507

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,377,036	1,081,728
短期借入金	932,886	1,408,688
リース債務	10,797	8,282
未払費用	428,742	362,238
未払法人税等	664,408	590,604
前受金	2,163,502	1,266,097
賞与引当金	735,996	353,158
役員賞与引当金	34,100	33,200
その他	656,788	1,130,516
流動負債合計	7,004,258	6,234,513
固定負債		
長期借入金	985,135	844,046
リース債務	15,571	10,196
繰延税金負債	168,214	147,549
再評価に係る繰延税金負債	398,310	398,310
訴訟損失引当金	73,278	73,278
資産除去債務	16,520	77,657
その他	51,127	52,123
固定負債合計	1,708,158	1,603,161
負債合計	8,712,417	7,837,675
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,351,750	7,351,750
資本剰余金	7,060,727	7,060,727
利益剰余金	14,409,627	15,788,764
自己株式	△781,548	△782,638
株主資本合計	28,040,557	29,418,604
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	308,333	146,199
土地再評価差額金	△5,531,033	△5,531,033
為替換算調整勘定	△663,812	△535,266
退職給付に係る調整累計額	88,095	103,903
その他の包括利益累計額合計	△5,798,416	△5,816,197
新株予約権	36,971	53,424
純資産合計	22,279,112	23,655,831
負債純資産合計	30,991,529	31,493,507

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	21,322,603	22,681,575
売上原価	11,580,174	12,080,644
売上総利益	9,742,428	10,600,931
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	217,491	227,510
荷造運搬費	555,000	642,724
貸倒引当金繰入額	55,193	14,190
貸倒損失	—	555,996
販売手数料	386,252	450,909
給料及び手当	2,493,976	2,488,585
賞与引当金繰入額	197,573	198,063
役員賞与引当金繰入額	25,600	33,200
退職給付費用	180,711	144,940
旅費及び交通費	336,645	372,149
減価償却費	182,725	218,140
研究開発費	539,150	556,377
その他	1,520,715	1,660,740
販売費及び一般管理費合計	6,691,034	7,563,528
営業利益	3,051,393	3,037,402
営業外収益		
受取利息	7,955	5,469
受取配当金	19,328	19,717
物品売却益	10,557	10,497
為替差益	12,657	28,483
保険解約返戻金	6,324	3,062
電力販売収益	18,753	19,311
その他	50,427	99,502
営業外収益合計	126,003	186,044
営業外費用		
支払利息	13,041	19,599
固定資産除却損	7,143	2,766
電力販売費用	11,562	10,628
その他	678	6,420
営業外費用合計	32,425	39,414
経常利益	3,144,971	3,184,033
特別利益		
為替換算調整勘定取崩益	—	55,077
特別利益合計	—	55,077
特別損失		
減損損失	—	70,174
特別損失合計	—	70,174
税金等調整前四半期純利益	3,144,971	3,168,936
法人税、住民税及び事業税	899,981	940,536
法人税等調整額	37,855	45,916
法人税等合計	937,837	986,452
四半期純利益	2,207,134	2,182,483
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,207,134	2,182,483

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	2,207,134	2,182,483
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	171,472	△162,134
為替換算調整勘定	226,453	128,545
退職給付に係る調整額	60,603	15,807
その他の包括利益合計	458,529	△17,780
四半期包括利益	2,665,664	2,164,703
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,665,664	2,164,703

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間において、亞太雷恩自動機股分有限公司を清算したため、連結の範囲から除外しております。

なお、変更後の連結子会社の数は5社です。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形の処理

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
受取手形	3,587千円	424千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	640,335千円	660,472千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	374,826	14.00	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金
平成29年11月7日 取締役会	普通株式	374,904	14.00	平成29年9月30日	平成29年12月11日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	428,454	16.00	平成30年3月31日	平成30年6月27日	利益剰余金
平成30年11月9日 取締役会	普通株式	374,892	14.00	平成30年9月30日	平成30年12月10日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食品加工機械製造販売事業				
	日本	北米・南米	ヨーロッパ	アジア	小計
売上高					
(1)外部顧客への売上高	8,747,574	1,483,085	2,121,198	2,537,461	14,889,319
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,223,966	17,255	3,168	—	3,244,390
計	11,971,540	1,500,340	2,124,367	2,537,461	18,133,710
セグメント利益	2,830,180	103,330	223,187	824,180	3,980,879

	食品製造販売事業			合計
	北米・南米	日本	小計	
売上高				
(1)外部顧客への売上高	6,048,618	384,665	6,433,283	21,322,603
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	23	23	3,244,414
計	6,048,618	384,688	6,433,307	24,567,017
セグメント利益	321,584	82,487	404,071	4,384,951

(注) 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 北米・南米……………アメリカ合衆国、カナダ、アルゼンチン
- (2) ヨーロッパ……………ドイツ、フランス、エジプト、イギリス
- (3) アジア……………中国、台湾、韓国、タイ、ベトナム

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	4,384,951
セグメント間取引消去	△153,246
本社一般管理費(注)	△1,180,310
四半期連結損益計算書の営業利益	3,051,393

(注) 本社一般管理費は、当社の管理部門に係る費用であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成30年4月1日至平成30年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	食品加工機械製造販売事業				
	日本	北米・南米	ヨーロッパ	アジア	小計
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	10,950,968	1,253,000	2,725,844	2,165,256	17,095,069
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,840,406	17,431	—	—	2,857,838
計	13,791,374	1,270,432	2,725,844	2,165,256	19,952,907
セグメント利益又は損失（△）	3,461,836	7,796	124,802	858,737	4,453,172

	食品製造販売事業			合計
	北米・南米	日本	小計	
売上高				
(1) 外部顧客への売上高	5,216,046	370,460	5,586,506	22,681,575
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	47	47	2,857,885
計	5,216,046	370,507	5,586,553	25,539,461
セグメント利益又は損失（△）	△95,262	51,827	△43,435	4,409,737

（注）各区分に属する主な国又は地域

- (1) 北米・南米……………アメリカ合衆国、カナダ
- (2) ヨーロッパ……………ドイツ、スペイン、フランス、トルコ、イタリア
- (3) アジア……………中国、インド、台湾、韓国、タイ

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利 益	金 額
報告セグメント計	4,409,737
セグメント間取引消去	△101,874
本社一般管理費（注）	△1,270,460
四半期連結損益計算書の営業利益	3,037,402

（注）本社一般管理費は、当社の管理部門に係る費用であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	82円43銭	81円50銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	2,207,134	2,182,483
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	2,207,134	2,182,483
普通株式の期中平均株式数(株)	26,776,604	26,778,185
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	82円30銭	81円34銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	41,576	52,904
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、 前連結会計年度末から重要な変動があったものの概 要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第57期(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)中間配当金については、平成30年11月9日開催の取締役会において、平成30年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議し、支払を行っております。

- | | |
|----------------------|-------------|
| ① 配当金の総額 | 374,892千円 |
| ② 1株当たりの金額 | 14円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成30年12月10日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年 2月12日

レオン自動機株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 松 聡 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 原 健 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているレオン自動機株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、レオン自動機株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成31年2月13日
【会社名】	レオン自動機株式会社
【英訳名】	RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田代康憲
【最高財務責任者の役職氏名】	該当者はありません。
【本店の所在の場所】	栃木県宇都宮市野沢町2番地3
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 田代康憲は、当社の第57期第3四半期（自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。